

令和6年度 第4回堺市東区政策会議 議事要旨

開催日時 令和7年3月26日（水） 午前11時05分から午後0時25分まで

開催場所 東区役所2階 203会議室

出席構成員 池崎守、川上浩、北井道子、小西貢、坂井茂子、城岡キヌ子、高落俊次、
高木悠里、西野巳佐夫、正木幸彦、松島亮次、森田法子、山本美奈子、渡士晶子
（以上14名）（50音順）

参考人 佐久間康富氏、松原壮志氏
（堺市東区政策会議開催要綱第7条に基づく関係者として招致）

事務局職員 東区役所 三井区長、近藤副区長、水谷東保健福祉総合センター所長、
新田企画総務課長、船津自治推進課長
企画総務課 武田課長補佐、井上企画係長、大野主査、植田、酒井

傍聴 傍聴人 1名

案件 1 開会
2 議題 次期東区基本計画の策定について
3 閉会

配付資料 資料1 令和6年度第4回堺市東区政策会議 座席表
資料2 （仮称）次期堺市東区基本計画 構成（案）
資料3 （仮称）次期東区基本計画 素案（一部抜粋）

【会議内容概要】

1 開会

堺市東区政策会議開催要綱第7条に基づき、2名の出席がある旨を報告。

一人目は、和歌山大学システム工学部佐久間教授で、現在の堺市東区みんなで育むわがまちビジョンの策定に関わられたことを紹介。

二人目は松原氏で、「ありがとう」の輪を広げる取り組みなど、東区のまちづくりに携わってこられたことを紹介。

2 議題

次期東区基本計画の策定について

資料2及び資料3に基づき、次期東区基本計画の策定について説明、報告した。

また「堺市東区区民アンケート調査結果報告書」が完成したことを報告した。

【各発言要旨】

- （座）本日は二人の参考人に出席いただいている。佐久間先生は都市計画分野で各地のまちづくりを研究されている。松原氏は元々「ありがとうプロジェクト」で一緒にさせていただき、現在は「未来建設プロジェクト」で関西こども建設王国を主宰されるなど、まちづくりにご活躍されている。
- （座）本日の議題に移る。初めに、事務局からアンケート結果の報告があったが、この件については持ち帰っていただき、精査のうえ意見などあれば直接事務局に伝えていただきたい。では、次期東区基本計画の策定について事務局に説明を求める。
- （事）＜資料2及び資料3の内容を説明＞
- 現計画の「堺市東区みんなで育むわがまちビジョン」14ページの東区のめざす将来像と比較すると、表現は変わっているが大切なポイントは同じく引き継いでいる。ただ、現計画の子育て・教育のところが今回では前出しされている一方、水と緑が「ともにたかめる文化」にまとめられている。現計画策定の際の議論の主旨は変わらず引き継がれている。

今回の案では「ともにそだてる教育」が特出しされているが、区として教育をどうしていくのかは皆さんと議論していけばよい。資料3（1）に「次世代へ継承する」と表現されているが、東区だけでなく日本全体で人手不足感が増していることもあり、地域の先輩たちが守り続けていることをどのように継承していくのかということがこれからのまちづくりの課題。その意味では皆さんと議論を進めることは要するが、教育を特出ししていることは現計画を引き継ぎながら今の社会情勢を踏まえたバージョンアップと理解できる。

全体像（イメージ）に示す図を見て、「まもる」「そだてる」「たかめる」の順番を「まもり、たかめて、そだてる（伝える）」の順でもよいと思う。
- ビジョンの構成そのものは前回会議で示されていて、今の時代に合わせていると思っている。区のビジョンをつくる意味を考えると、例えば脱炭素では区が単独でできる事業展開を現計画でも示しており、事務局案も時代背景を踏まえた東区として力を入れる項目を挙げたと理解した。その中で気になるのは、「ともにたかめる文化」の項目に水・緑は入ってはいるが、前回会議資料の骨子（案）のイメージ図には、水・緑が記載されているのに、今回の全体像のイメージ図ではあえて抜けている。水・緑や住環境をつくるということについては、区として事業展開していくのがなかなか難しいのかなと思った。一方、公園をどのように使っていくのかについては、区役所行政や区民として関われるところがある。

公園や住環境をどうしていくのかを行政として記載していることが、地域で活動されている方々や区民を応援しているということを表していて、ビジョンに記載することは大切だと思うのでこれからの会議で議論していただきたい。
- （区）今ご指摘があった文化のところに水・緑を包含したことについてだが、記載すること自体が区民の皆さまを応援することなのだと指摘はなるほどと思った。考え方の整理の中で歴史文化と水・緑を今回のイメージ図から抜いたのは地域の皆さまの環境美化活動などいろんな取り組みがあるなかで、歴史文化と水・緑と限定したような表現をもっと広げる意味で「文化」

一つにまとめた記載とした。水・緑の記載は大事だと再認識した。

- （座）今のやり取りは今後の基本計画策定に係る意見として意義あること。細部にわたって議論を進めていければと思うし、この会議だけでなく地域でも議論していただいて意見をこの場に届けていただければありがたい。
- 地域の昼間人口と土休日の人口のことを考えると子どもたちが常に一定して多いと思っている。そこで、子どもたちを通じて地域活動を進め、土休日に親を呼び込む活動によって地域のつながりが生まれる。例えば簡単なものを自分たちで作るような、子どもが参加しやすい、子どもが主体の居場所づくり活動を進めていくと、子どもたちの親世代も参加するようになり、地域の活性化につながる。若い世代の地域活動参加が難しくなっている中、子どもたちの世代につなぐ取り組みを始めている。このようなつながりの内容を表現できる計画であってほしい。
- （座）今のご発言から人が大切であり、まちづくりだけでなく安全安心にもつながる。各地域の活動のなかでまちづくりを進められないかというヒントをいただいた。
- 東区の小中学校は地域と密着している。地域の皆さんも子どもたちの教育に関心を持っている。計画に教育が入っているのは良い。
- このビジョンの中で我々は何をするのかということになると、何をしてもこのビジョンに関係することができると思うので、我々は今具体的に何をしたいのかという項目を入れたらよい。この目的のためにこれをするのだという項目を入れたらわかりやすい。

取組の方向性に記載されている項目は、皆それぞれ少しずつではあっても既に行動していて、何を記載するのか迷ってしまうことになる。自分の校区では、自治会活性化委員会を立ち上げて活動したい人が手を挙げているので、この人たちにもこの計画を説明して意見を集約したい。
- 所属している自治会でもいろんな事業活動をしているが、子ども中心の活動が必要ではないかと思っていて、例えば防災訓練の際も子どもたちが増えてきた。
- 少子時代の今、例えば子ども会の活動も保護者の負担感が気になるが、やはり子どもたちを巻き込む活動ができればと思った。それが地域の活性化につながる。
- 資料３を見ていて気になるところがある。最後のページの数値目標のところ。アンケート結果で住みたいという回答が 69.3%。住みたいかと聞かれて住みたいと思うが仕事の関係でどうかということもあるとか、いろんな要素が重なる。地域ではいつも話し合っていることだが、安全とは何か治安をどのように捉えるか、など議論は進めていくが、それを数値で表すことになる。数値目標というのは進捗を確認するものとは思いますが、何点とつけていくのか。
- （事）取組成果がどれだけ進んでいるのかを皆さんと共有する意味と捉えていただきたい。
- 例えば 70%を 85%にするというのは非常に大変なこと。アンケート報告書にある文化芸術を通じた活動では前回調査結果に比べて 7 ポイント減っている。元々 8 ポイントしかなかったものが 7 ポイントも減っている。元々低い項目は大きな苦勞なく増やせると思うが低くない（高い）項目を増やすのは至難の業というほかない。その意味で数値目標を掲げるのは大変だ。
- 今日の事務局からの提案資料については非常にご苦勞されたと思う。特に、教育について取り上げていただいていることを評価したい。今まで学校の生徒や先生の様子から教育について

は東区の各学校を評価していたが、なかなか取り上げていただけていなかった。

- この将来像で子どもたちを導いていくことになる。皆さんと議論しながら進めていきたい。
- 資料3の2ページ目の(2) 将来像を実現するための基盤となる考え方の3行目、「子どもから高齢者まで世代を問わず参加し…」の文章を見て、その通りだと思った。

自治会として大切にするのは活動してつながってということで、自治会に未加入の人にも参加してもらえ事業を進めることでつながりが生まれてくると思い、自治会としての活動ポイントを変えようとして対応し始めている。

- その通りと思う。次世代につなぐ文化を生み出していければよい。自治会の在り方についても東区から発信できればと思う。
- 自分の校区での全体を巻き込むような活動は少ないと思った。どうしても高齢者の視点になって子どもたちまで目に入らない。子どもたちを巻き込む行事をこれから考えていきたい。
- 自分の校区では、昔あった夜店や盆踊りなどの活動がなくなっていたが、一昨年から夜店をしようということになり、こども会の0B会を10数名で結成して廃品回収から夜店まで手伝っている。小さい子どもを育てている親にも声掛けしてバレーボールを楽しんだりして、その延長で自治会イベントにも参加していただけるようになった。自分たちがこどもの面倒を見ることで若い親世代にも参加してもらえるようになった。このつながりがいざ災害が起こったときに有効に作用する。小さいお子さんを地域が支えることがまちづくりにつながる。
- (座) 自治会の在り方のご発言が多かった。今日のご意見をぜひとも活かしていただき、それぞれ校区にとらわれずに地域として、東区全体を巻き込んだ発信ができれば地域社会の在り方の一例を示すことができる。人がいなくなる限り地域はなくなるのでまちづくりは進めていくことになる。
- (座) 本日、事務局から提案された案を基本方針として今後進めていくということでよい。今後の作業を進めていくとして、計画の完成時期について事務局はどう考えているのか。
- (事) 素案の完成は、夏ごろを想定している。5月に会議を開催したいと思っている。
- (座) では構成員の皆さんには資料の読み込みを進めていただき、先生方にも今後よろしく願います。検討課題ではあるがというような項目もこの計画に含めていただくことで行政と連携した計画の実像が見えてくる。ただ、再度申し上げるが目標値だけは気になる。
- (事) 皆さんとゼロベースで検討していきたいと考える。
- (座) 数値データで表現できる項目であれば可能だが、心の表現など数値で表せない項目を扱うのは難しい。数値に左右されると元々の意義から乖離する。先生方の意見もいただきながら対応したい。

3 閉会